教育実践学研究第７号　２００３．３

〈論　文〉

小学校５・６年の授業における音楽科学習の多様な指導方法について

茨城大学音楽教育講座　　牛久市立向台小学校
山口　文子　　藤岡　洋子

研究の概要

授業時数削減の中で，これまでの自分自身の授業実践への反省に立ち，児童が教師からの指示を待つ，受け身的な学習形態の改善工夫や児童の興味・関心を揺さぶるような教材・教具の提示などにつとめていくことが必要だと考える。

そこで，多様な指導方法を工夫して児童が主体的に学ぶ授業の在り方を考察し，その考察を基に実践を試みた。

Key Word：「学び方」学習，ＴＴ，ゲストティーチャー，視聴覚教材，発表会，学習カード

1　はじめに

今年度より新教育課程が全面実施となり，授業時数及び内容の削減の中で，学習指導要領の確実な定着，さらには発展的な指導の充実が叫ばれている。

教育課程審議会[1]の答申における音楽科の改善の基本方針の一つに，「児童生徒が楽しく音楽にかかわり，音楽活動の喜びを得るとともに，生活を明るく豊かに生涯にわたって音楽に親しむことを促すことを重視し，表現活動及び鑑賞活動の関連を図りつつ，各学校が創意工夫を生かして，児童生徒一人一人が個性的，創造的な学習活動をより活発に行うことができるようにする。」と述べている。

さらに，小学校音楽科の学習指導要領[2]では，児童の思いや願いを実現するために，幅広く多様な音楽を直接体験し，児童が生涯にわたって音楽を愛好するための素地となる諸能力を確実に身に付けることが主なねらいとなっている。

授業時数削減の中で，このようなねらいを実現するためには，これまでの自分自身の授業実践への反省に立ち，児童が教師からの指示を待つ，受け身的な学習形態の改善工夫や児童の興味・関心を揺さぶるような教材・教具の提示などにつとめていくことが必要だと考える。そして，「音楽科における基礎・基本とは何か」ということについて理解を深め，日々の学習指導でその確実な習得をめざしていくようにすることの大切さ強く感じている。

本校の児童は，今まで進んで学習する態度や，お互いのよさを認め合いながら共感する心情を培ってきた。しかし，音楽科の授業では，受動的に学習に臨んでいることが多く，教師指導の教え込み型の学習になりがちの傾向がある。

そこで，音楽科における基礎・基本を踏まえながら，視聴覚教材の活用やＴＴ[3]，ゲストティーチャー[4]の活用，ワークシートの工夫など多様な指導方法を取り入れることによって，児童が「学び方」を身に付ければ，生涯にわたって音楽を楽しむために必要となる素地を育くむことができるであろうと考える。「美しい響き」を育てる歌唱・器楽の学習，「おはやしをつくろう」の創作表現学習において，基礎・基本を踏まえた多様な学習方法を取り入れた授業を展開することによって，児童一人一人が主体的，創造的に取り組むようになり，「学び方」を身に付けることができると考える。

以上のことを踏まえ，本研究においては，多様な指導方法を用いた５・６年の授業を通して，

児童に主体的な学び方を身に付けるための在り方を理論面・実践面から究明しより効果的な指導方法をの実践を進めていきたいと考える。

2　研究のねらい

基礎・基本を踏まえた多様な学習方法を通して，学習の状況を適切に把握し，指導と一体となる評価の工夫を図りながら，児童に「学び方」が身に付く音楽科学習の指導の在り方を究明する。

3　研究の内容

(1)　基本的な考え方

①　音楽科における基礎・基本について文科省の調査官である金本正武氏[5]は，初等教育資料[6]の中で，「音楽科における基礎・基本とは，学習指導要領に示してある目標及び内容の総体である。すなわち，『基礎・基本』とは，決して知識・理解に関する内容あるいは技能のみを意味しているのではない。」と述べている。つまり，児童が学習への興味や関心，意欲や態度，さらに自ら学び自ら考える力など，主体的・創造的に学習を進める上で必要とされる様々な資質・能力も含めて考える必要がある。それには，基礎・基本を児童が身に付けるべき資質・能力という観点に立って捉える必要があるのではないかと考える。

それらを金本氏は，次の各点に集約している。

- 音楽への興味・関心，進んで音楽活動をしようとする意欲や態度。
- 曲想や楽曲を特徴付けている要素を感じ取る力。
- 音楽的な感受を基盤として，表現の仕方を工夫したり，音楽をつくって表現したりする力。
- 歌い方や楽器の演奏の仕方を自分で身に付ける力。
- 読譜に必要な知識を理解して音楽表現に活用する力。
- 音楽を聴いて，そのよさや美しさを感じ取ったり味わったりする力。
- 楽曲を特徴付けている様々な要素を聴き取ったり，それらのはたらきに気付いたりする力。
- 学習で得た音楽経験を自分の生活の中に生かす力。

「述べられている資質・能力は，どれも各学年の年間指導計画における各題材の目標及び内容の中に適切に位置付けられることが大切である。」とされている。これらは，身近な音楽を題材に多様な学習方法を通して学習を進めることで確実に身に付けられると考える。そのためには，感動や成就感が味わえる音楽活動をすることや継続しながら学習を進めること，技能習得や知識・理解を身に付けることの必要性を強く感じられる授業展開ができるようにすることが大切だと考える。

②　「学び方」学習とは，

金本氏は，平成13年の初等教育資料で，教育課程審議会が掲げている，〔生きる力〕を学校教育において具体化するものとして，「自ら学び，自ら生きる力を育成すること」を小学校の音楽科において考えてみると，子どもたちが自らの感性を豊かに働かせながら，楽しく音楽にかかわるようにすること，そして個性的で創造的な学習活動をより活発に行うようにすることを重視して改善を図っている。」と述べている。

音楽科の学習活動は，児童一人一人が音や音楽に主体的，創造的にかかわっていかなければ成立しないものである。このことからも，主体性や積極性（自ら学ぼうとする姿勢や

態度），音楽活動における創造性（自ら考え，つくり出す力）といったものを引き出していくような取り組みが重要になると考える。

そして，範唱や範奏などを聴く雰囲気や環境，教師の授業に対する思いや熱意など，教師がどのように音楽の授業を進めるのかといったを児童に伝えることもその重要な要因と考える。

また，児童の表現活動や鑑賞活動そのものが音楽を直接体験する活動であり，同時に児童のもつ様々な思いや問題意識を実現したり解決したりする活動も必要であると考える。以上のことから「学び方」学習とは，多様な学習方法を取り入れた学習展開の中で，様々な音楽や楽器に積極的に働きかけ，認め合い，称賛し合いながら，自分自身の感じ方や考え方を広げて音楽表現を楽むこと。さらに，音楽を聴いてそのよさや美しさを深く感じ取りながら，つくりあげる喜びを共有していくことができることと捉えた。

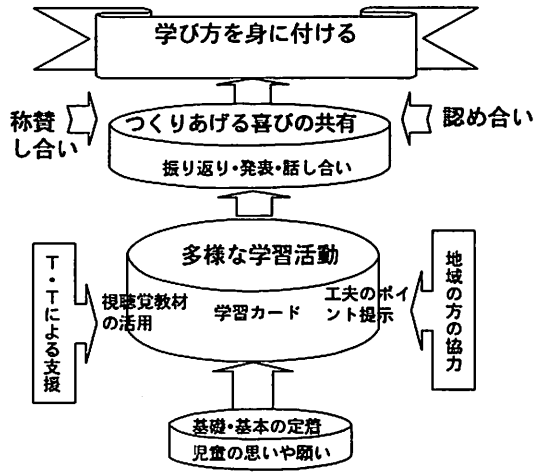

図１　学び方を身に付けるための構想図

(2)　主題に迫るために

①　音楽科学習に関する実態調査（アンケート）

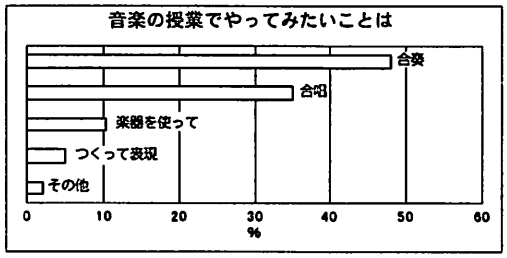

図２　音楽科学習に関する実態調査①

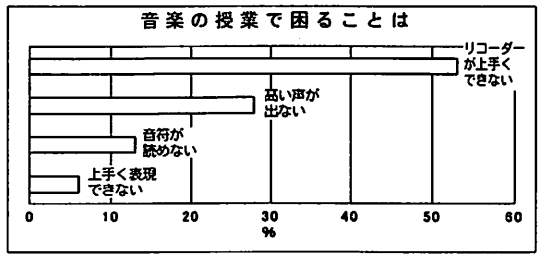

図３　音楽科学習に関する実態調査②

アンケートの結果，音楽科学習に関する意識調査グラフからも分かるように，歌うことや合奏することが好きな児童が多く，「いろいろな楽器に触れてみたい」「演奏をしてみたい」というように興味・関心も高い。また，授業の中で困ることの中で，声の出し方やリコーダーの演奏など技能面でのことや歌い方や演奏の創造的な表現等の感受の工夫面でのことをあげている。これらの児童の思いや願い大切にしながら，自分がどう目標に近づいていくかということを考えることができるような学習活動の工夫について研究する。

②　地域人材の活用（ゲストティーチャーの協力）

鑑賞や伝統音楽の学習をするにあたって，専門的な知識や基礎基本を学ぶ上でも，地域で和太鼓や管楽器を指導している人の協力が必要と考える。それは，本物に直接触れることによって，児童はその迫力，奥行きに感動し，音を聴くだけではなく視覚で捉えたり，弓の仕組み一本一本の弦の種類，和太鼓の演奏の仕方など本格的に，和太鼓や管楽器を知ったりすることで，意欲がわいてくるのではないかと考えるからである。

さらに，本物の音に身近で触れることは，学習意欲を高めるだけではなく，創造性豊かな表現力と感性を培うことにも大切ではないかと考える。

そこで，鑑賞教材や伝統音楽の学習に，保護者でもある二人の先生と「牛久わんぱく太鼓」指導者である方をお迎えし授業に協力してもらうことにした。バイオリンや和太鼓の基本的な内容・扱い方・模範演奏などを直接聴くことで，イメージを広げながら，そのよさや美しさを感じ取ったり味わったりできるようにしていきたい。

③　視聴覚教材を生かしてのミニ発表会の設定

児童の合唱や合奏などの様子を随時ビデオに撮り，振り返りや練り上げの時に自分の演奏の様子を観るようにする。このことで歌い方や楽器の演奏の仕方に気付かせ，自分で身に付けられるようにしたり，表現の仕方を工夫したりするなど技能面や感受の工夫面で生かしながら，一時間一時間のステップアップを図っていくようにする。

また，児童一人一人の様子を観察し，その努力を認め，よさや進歩をみることができるための評価の一つの手だてとしていきたい。

④　学習を見通すためのポイントの提示

視聴覚教材を活用してのミニ発表会の時や鑑賞の時に，今日の学習の中で見取るポイントを提示して，学習内容の明確化を図っていく。児童が工夫するところやイメージを広げるための手だてとしていきたい。

⑤　学習カードの活用

反省カードではなく，１時間の授業で自分の課題に対する自己評価や友達のよかったところ，工夫したいところを振り返ったり，質問や感想を書いたりする「振り返りカード」を活用する。その感想をもとに次時の学習課題を明確にしながら，意欲へとつなげていきたい。自分の表現と友達の表現との共通点や相違点，自分の表現の変容の様子を言葉や自己評価で表すことによって，学習への深まりを捉えやすくすることができるものと考える。

また，その学習の中で，できるようになってきたことを随時自己評価し，学習の最後には，丸の数が増えていけるように工夫していきたい。

⑥　ティームティーチングの活用

学級の担任に協力してもらい，多面的に支援するため，ティームティーチングを取り入れて実践する。

複数の教師によって楽器の基本的な奏法やリズム，テンポなどの支援や助言がされたり，評価されたりするため，意欲や興味・関心は一層高められ，主体的な活動が展開できると考える。

⑦　一人一人が身に付けて欲しい資質・能力を明確にした補助簿の活用

題材ごとの指導と評価の計画を作成し，様々な評価方法の工夫をした補助簿を作成する。Ｂの児童を規準とし，規準としたことよりも高い資質・能力をもつ児童をＡとし，規準に満たない児童をＣとする。Ｂを示す評価規準の内容をもとに，Ａと判断するキーワードを具体的にし，Ｃと判断しなければならない児童に働きかけられるような工夫をする。

Ａと判断するキーワードを何で見取るか評価方法も題材ごとに考えていく必要があると考える。

⑧　教材の選択と発表会の設定

リコーダーを中心とした器楽教材の時に，２曲のうちから自分の好みの方の曲を選択させ，発表会を行う。取り組みの中で，意欲を高めると共に，グループで協力しながら曲想について考えたり，表現の工夫をしたりして，一つの作品をよりよいものに仕上げられる

ようにしていきたいと考える。

4　実践事例

(1)　第５学年の実践

題材　きれいなひびきで

教材　「星の世界」[7]

この曲は，三部形式の合唱曲で，題材を通して育てたい力として，「声の重なり合った響きを味わって歌うことができるようにする」ことをあげている。

三部形式の合唱教材は，初めての取り組みなので以下のような学習方法を取り入れてみた。

①　視聴覚教材を生かしてのミニ発表会の設定

譜読みができてきた頃に，自分たちの合唱を録音したものとＣＤの範唱を聴かせ，自分たちの合唱との違いを聴き比べさせて，なおしたい点や工夫したい点を話し合いながら作品を仕上げていった。

また，ビデオに自分たちの合唱の様子を撮り，それを見ながら姿勢や口の開け方，顔の表情など合唱の基礎・基本となる点を振り返ってみた。

学習のはじめに聴いた範唱ＣＤを，ある程度学習してから聴き返し，自分たちの録音したテープと比較することにより，違いが具体的で明確にとらえやすかったことが窺えた。「もう少し，なめらかにしたい。」「ことばをはっきりさせたい。」「歌い出しに気をつけたい。」など，声の出し方や言葉の表現の仕方，強弱などの曲想の表現の仕方を，一人一人がどこをどう工夫したらよいかはっきりともつことができた。

また，ビデオの活用により，ＣＤやテープの聴覚からの比較では気付けなかった面に視覚を通して気付くことができた。「もう少し，口を大きく開けた方がよい。」「顔がこわい感じ，笑った方がよい。」など，口の開け方や姿勢，足の置き方，顔の表情にとても細かい点で自分を確認することができた。「○○さんは，口を縦に開けて歌っている。」「○○君は，楽しそうに歌っているよ」など，話し合いの中でそれらがしっかりとできている児童を認めることができ，「自分もまねしてみよう。」と言う態度がみられるようになり，自分自身で気を付けようとする様子が見られた。

②　ゲストティーチャーの活用

ア　教材　管楽器の鑑賞曲

管楽器の鑑賞の学習時に，バイオリンを専門に習ってきた保護者の方を二人を招いて演奏をして頂いた。

演奏の前に，児童一人一人の間をバイオリンを持って回りながら弓や弦について説明し，見せたり，触れさせたりしてくれた。

その後，パッフェルベル作曲「カノン」を演奏して頂いた。

本物の楽器を間近で見ることができ，生演奏を鑑賞することができたことにより作品のよさや美しさを感じることができた。聴き終わった後の児童の目の輝きの違いを見て，本物に触れるよさを痛感した。

チェロの曲はＣＤを活用しての鑑賞であったが，２つの管楽器の音色の違いに気付くのに有効であった。

初めてバイオリンを実際に手にした児童は，「音色もとてもステキで心にキューンと響いた。」「演奏してくれた○○君のお母さんがとてもステキだった。」など聴覚だけでなく視覚からも捉えることができた。音色だけでなく演奏する姿を実際に見て楽器に対

する関心や自分もやってみたいというあこがれが表れていた。

イ　題材　おはやしをつくろう

教材　◎河童ばやし　（作詞・中島清治　　作曲・福田　正）

〇寄せ太鼓

この教材は，牛久市で毎年行われるかっぱ祭り[8]の踊りパレードで用いられる，地域の音楽である。ここでは，この教材を用いてお囃子のもつ，リズムやテンポを感じ取りながら，「河童ばやし」に合うお囃子をつくり，表現を工夫しようとする創作活動である。

ゲストティーチャーの方の協力は，児童の感想からもわかるように，和太鼓の基本的な奏法を身に付けることや児童の学習意欲を高める点で効果的であった。

ゲストティーチャーに教えてもらったことにより，「初めての体験であり，これからの学習展開が楽しみだ。」や「和太鼓の音がとても心に響いてきてうれしくなった。」という感想をもった児童が多くみられた。

このことからも，ゲストティーチャーの授業への参加は，学習内容の深まりを生み出すとともに，児童にとっても新鮮な気持ちで学習に臨むことができ，学習意欲を高め，つくって表現する楽しみを味わえる音楽科学習に有効であった。

(2)　第６学年の実践

題材　きれいなひびきで

教材　「風を切って」[9]

この曲は，器楽教材で，題材を通して育てたい力として，「いろいろな楽器の音色を生かして美しい響きで表現することができる」をあげている。

①　視聴覚教材を生かしてのミニ発表会の設定

グループごとに楽器を選択し，個人練習からグループ全体での練習に入ったころからビデオを撮り，振り返りと練り上げの段階で活用してきた。４つのグループに分けて，１教室に２グループずつで練習をした。お互いのグループの演奏ビデオを見合いながら，話し合いを行ってきた。話し合いの中で，表現を工夫する点やなおしていきたい点などを確認していった。

自分たちの演奏ビデオを鑑賞することで，「マレット[10]のもち方を変えよう。」「〇〇さんは，２種類のマレット使って演奏していた。」など，木琴や鉄琴のマレットの持ち方，演奏の仕方を自分で工夫しなくてはならない点が明確になった。

また，いろいろな種類のマレットの活用による音の響きの違いを，実際に友達が演奏したのを見て，その響きの違いを実感することができた。「鉄琴が旋律を演奏していて新鮮な感じがする。」「前半と後半に鈴の音が入ってとてもよい。」など，各選択した楽器のよさ，表現を工夫した点でのつぶやきも聞かれた。出だしと最後がフォルテ[11]ではっきりとした演奏だった。」「木琴の演奏が全体をリードしていた。」など，曲想リズムや速さなどを振り返り，友達のよいところを認め，何にこだわって工夫するのかに児童自身が気付くようになった。そして，次々と新しい工夫を求め，次の学習課題へとつなげることができた。

また，学習後に，教師が児童一人一人の努力の様子を評価するのにも大変有効であった。

②　ティームティーチングの活用と学習を見通すためのポイントの提示

曲に合わせて各グループで楽器を選択したため，いろいろな種類の楽器が用いられた。そこで，学級担任とのティームティーチングを取り入れ，Ｔ１・Ｔ２で各２グループずつ

分担し合い支援していった。

担任に，どの児童が何の楽器を担当しどこのパートを演奏するかを伝え，この題材で育てたい資質や能力についても共通理解を図った。

また，基本的な奏法や曲のリズム，テンポについても事前に打ち合わせを密にした。

感受の工夫の面で，どの児童がどんな感じ方や工夫の仕方を考えているか，つぶやきや意見交換を聞きながら支援にあたった。

ここでは，学習を見通すためのポイントも「工夫のポイント」として提示し，先に述べたビデオと共に活用してきた。自分たちの合奏をつくりあげていくための「工夫のポイント」をいくつか提示し，各グループで表現を工夫するために話し合いの焦点化を図った。

いろいろ種類の楽器を用いての合奏であったため称賛したり，困っている児童への働きかけをしたりしながら，児童一人一人の支援にあたる際に，ティームティーチングの活用は有効であった。

「Ⅳのパートのリズムが分からず困っていたけど，先生がオルガンで一緒に演奏してくれたのでだんだん分かってきた。」など，一人一人の児童の思いや願いに対して支援や助言をすることかでき，満足感を味わわせることができた。

自分たちの合奏をビデオで鑑賞しながらの話し合いの時に，「表現を工夫してもっとよい演奏にしよう。」とつぶやいている言葉を聞き逃さず，それに対しての支援や意見の言えない児童も，どんな捉え方で話し合いに参加しているかを観察することができた。

③　教材の選択と「二重奏」[12]の発表会の設定

題材　曲の気分をとらえて

教材　「メヌエット」[13]，「失われた歌」[14]

「メヌエット」は，３拍子の舞曲でイ短調の曲である。旋律が激しく動き，速度も速いリズム感のある曲である。一方の「失われた歌」は，対照的で旋律の動きもあまり激しくなく，速度も割にスローテンポである。

「メヌエット」と「失われた歌」の２曲から，どちらか演奏してみたい方の曲を選択させ，最後にリコーダーの二重奏・二部合奏の発表会に取り組んだ。

選択した曲の中でグループを組み，ⅠとⅡのパートに分けた。この時，「グループの人数を５人以内」「パートは必ず分けること」「パートの人数の偏りに気をつけること」を条件にして話し合いをもった。

「自分にあった曲だったので覚えやすかった。」「なかよしの友達とグループが一緒で休み時間も練習できた。」など，自分で選択した曲を演奏することは，意欲を高めただけでなく，児童のもつよさを表現するのにも有効であった。

また，この２曲の曲想は全く違うので，自分の好みにあった方を選択することで，自分なりに表現を工夫し，楽しそうに進んで取り組む様子が見られた。そして，自分たちで相談してグループを組んだことで，人間関係も上手くいき，お互いに教え合いながら学習する姿も見られた。帰国児童でリコーダーの苦手な児童も，友達の協力を得て発表することができ，満足感を味わえたことを感想で述べていた。

発表会前にリハーサルとして，各グループごとに教師の伴奏で合わせていく時間を設け，称賛したり，いくつかのポイントを示したりした。その後，演奏がそろってきたグループからＣＤの伴奏へとつなげた。このことにより，自分たちで話し合いながら練習する方法が身に付き，その分苦手な児童への支援にあてることができた。

工夫のポイントを提示したことによって自分たちの工夫すべき点が明確になり，響きを

楽しみながら素晴らしい合奏となった。

(3)　５，６年共通の実践

①　学習カードの活用

自分のめあてに対しての反省カードだけではなく，「今日は思い通りに演奏できた。」「Ⅱのパートのリズムが分からない。」など，毎時間の感想や質問，気付きなどを記録し，自分自身を振り返って自己評価できるようにした。

また，この題材で，習得したい項目をあげておきこの題材の終わりまでにできるようになったことに丸印をつけて意欲を持続していった。例えば，自分はⅠのパートだけれど，どんどん練習を重ねてⅡやⅢのパートも歌えるようになったらその欄に印をつけていく形式にした。

教師は，一人一人の学習の足跡を確認し，努力を認めながら個に応じた支援に配慮することができた。

「風を切って」　学習カード
6の　　名前

グループのめあて
「　　」
担当する楽器とパート

月日	反省　感想　質問	自己評価	
		風を切ってを歌うことができる	
		楽譜を読むことができる	
		①をリコーダーで吹くことができる	
		②をリコーダーで吹くことができる	
		①を楽器で演奏できる	
		②を楽器で演奏できる	
		③を楽器で演奏できる	
		④を楽器で演奏できる	
		リズム伴奏をつくって演奏できる	
		工夫しながら合奏することができる	
		正しい順番で演奏できる	
		音の重なり合いや響き合いを感じながら演奏できる	

学習の感想

自己評価は○で評価する

表１　学習カード

②　一人一人が身に付けて欲しい資質・能力を明確にした補助簿の活用

授業のはじめに，本時の学習課題の確認と共に「ここまでできるようにしたい・こんな所にこんな工夫ができるとよい」というように，Ｂの評価規準を児童に具体的になげかけた。そして，この題材で学習していくことや身に付けて欲しいことを話し，学習の構想をたてさせた。このことで，児童は授業の見通しをもつことができ，これからどんなことをがんばっていくかをワークシートに書くことができた。

Ａと判断する児童のキーワードを具体的に明記し，評価方法もいくつかの点を考えた。毎時間まではいかなかったが，Ｂの評価規準を説明しているので，その中でキーワードをもとに判断していくことができた。補助簿の活用によって，授業の中で，Ｃと判断される児童への働きかけができ，Ｂ規準までもっていくことができた。

時間内に全員までいかない時は，次時に，真っ先に働きかけることができた。このことは，学習カードの記入やビデオの活用からも実践することができ．支援の充実を図れた。

題　材	１時間目	２時間目	３時間目	４時間目	５時間目	６時間目	７時間目
きれいなひびきで	滝廉太郎の歌曲	星の世界	星の世界	星の世界	星の世界	美しくロスマリン・白鳥	ピアノ五重奏曲「ます」第４楽章
観　点	鑑賞・意欲	感受の工夫	技　能	技　能	技　能	鑑　賞	鑑　賞
Ｂ　規　準	いろいろな合唱に興味を持って進んで聴こうとしている。それぞれの響きの違いを感じている。	無理のない声・きれいな声・豊かな響きのある声による美しい表現をもとる眼手歌い方を工夫している。	それぞれのパートの音をリコーダーで正確にとる。	それぞれ自分のパートを他のパートの音を聴きながら歌う。	互いのパートの音を聴き合いながら歌う。	それぞれの弦楽器の違いを感じ取っている。	変奏のおもしろさを感じ取って聴くことができる。
評価方法	学習ワーク・顔の表情・態度・感想	パート練習・全体合唱	パート練習・個別練習	パート練習・個人練習	発表会	学習ワーク・顔の表情・態度・感想	学習ワーク・顔の表情・態度・感想
Ａと判断するキーワード	多様な演奏形態や響きの違い，特徴について理解して聴く。響きの美しさを味わって聴く。	歌詞を理解しての歌い方の工夫。姿勢や発声の仕方。友達の歌い方をよく見て。	自分の選んだパートをリコーダーで正確に吹く。すらすらとなめらかに演奏する。音を聞きながら合わせる。	自分のパートを正しく歌う。他のパートの歌を聴きながら歌うことができる。	三部月賞の響きを感じながら正しく歌う。	バイオリンとチェロの形・大きさ・音色の違いを感じ取って聴いている。	指揮をしたり，身体表現，絵譜に旋律の変化を自分なりに表現している。

表２　補　助　簿

5　研究の成果と考察

(1)　「児童に学び方を身に付ける」ため，基礎・基本を踏まえた多様な学習方法を取り入れてきた。

そのため，自分で学習の見通しを立ててその目標に向かって，主体的に取り組もうとする児童が育ってきている。

題材最後の感想で「自分なりに演奏できて楽しかった。」「歌が上手くなったような気がする。」「いろいろやって楽しかった。」と書いている児童が多く，満足度の高さが分かる実践となった。

(2)　ティームティーチングやゲストティーチャーの活用によって，幅の広い学習ができ，以下の図からイメージを広げて表現を工夫する感受の工夫面でもおおいに有効であった。

(3)　視聴覚教材の活用は，児童の学習意欲だけでなく，技能面や感受の工夫面でも効果的であった。主体的・創造的に学習を進めるのにつながったものと考える。

また，一人一人の努力を認めたり，評価したりするのに大いに役立った。

(4)　学習カードを取り入れたことによって，自己を振り返りながら目標にむけて，毎時間学習に取り組めるようになった。

また，「どんな思いで学習に臨んでいるのか」，「どんなことに困っているのか」などについても把握することができ，次時での手だてや個への支援を行う上で参考となった。

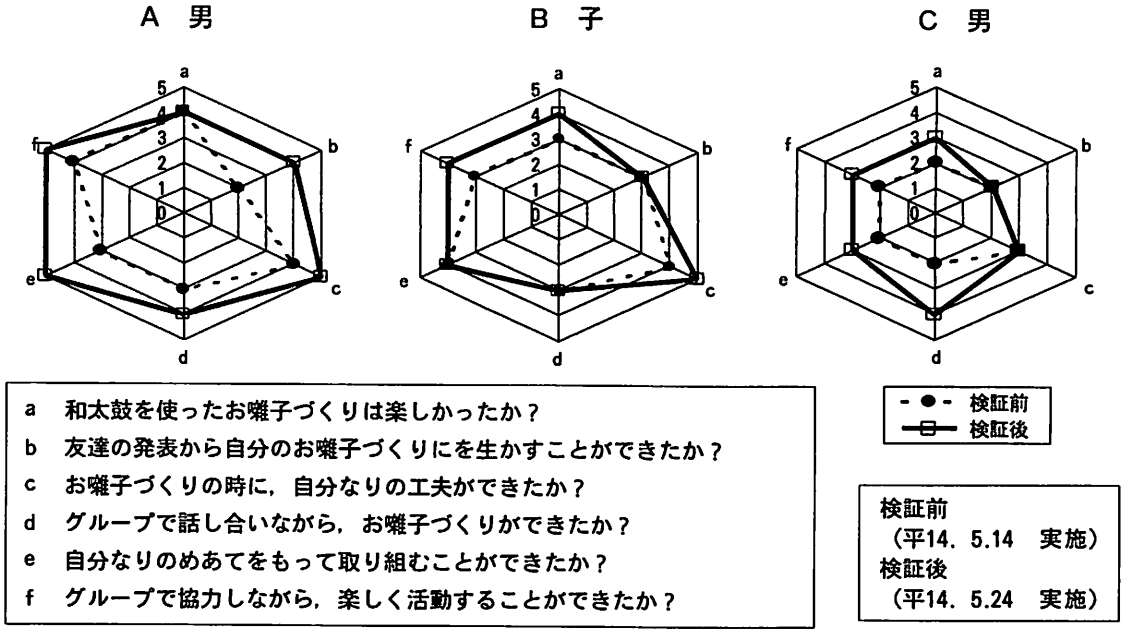

図４　検証授業前と検証授業後の評価結果

6　研究のまとめ

今まで児童は，受け身的な授業の進め方でただ単に，教師主導型で合唱したり合奏したりするだけで終わってしまい，自分なりの音楽を表現することがなかった。

しかし，多様な指導方法を用いて，「学び方」学習を身に付けていったところ，毎時間自分なりのめあてをもちながら課題をすすめることができた。また，合唱や合奏の学習の中で友達のよさを認めながら自分の課題を明確にすることができ，楽器の演奏方法や合唱での口の開け方等の基礎基本をおさえることもできた。そのことからもっと表現を工夫しようとする意欲が出て，自分なりの表現の工夫ができるようになった。これらは，学習カードや発表会の工夫，視聴覚教材の活用方法の成果だと思う。

そして，これらの活用によって，教師側も児童一人一人にどのように支援すればよいか明らかにすることができた。

ゲストティーチャーを鑑賞学習や創作活動で取り入れたことにより，本物に実際に触れることや生演奏を肌で感じることができ，聴覚だけでなく視覚でも捉えることができた。このことからも，少しでも本物に近づきたい，表現したいという気持ちを育むことができたであろう。

ＴＴや評価方法を工夫した補助簿の活用により，一人一人のよさや可能性を評価することができ，児童がどのように変容しているか明らかにすることができたと思う。

7　おわりに

以下の三つを今後の課題としてあげたい。

(1)　リコーダーや歌の技能面だけでなく，階名読みや音符や記号の書き方などを定着させるための教材開発に努める。

(2)　時数削減の中で，ゆとりをもって取り組めるような，授業内容や指導計画を工夫する。

(3)　コンピュータの活用による，つくって表現する創作活動の授業を工夫する。

<注>

1）　教育課程審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（答申）」（文部科学省ホームページより，1998年）.

2）　平成11年５月に文部省から出された小学校学習指導要領解説の音楽編.

3）　ティームティーチングの略で，二人以上の教師がチームを組んで授業を行う.

4）　専門の方や地域の方などが，ボランティアで授業に協力し，指導してくださるときの呼び名.

5）　平成元年より文部科学省初等中等教育局小学校課教科調査官.

6）　文部科学省より毎月発行されている資料.

7）　教育芸術社の小学校５学年の教科書に載っている曲.

8）　毎年行われる牛久市の夏祭り.

9）　教育芸術社の小学校６学年の教科書に載っている合奏曲.
土肥　武作詞，橋本祥路作曲.

10）　木琴や鉄琴を演奏するときのバチ.

11）　音楽の記号名。意味は強く.

12）　２つの重なり合う旋律を同じ楽器で演奏する.

13）　教育芸術社の小学校６学年の教科書に載っている曲．クリーガー作曲の曲.

14）　教育芸術社の小学校６学年の教科書に載っている曲．チャールズチルトン作曲の曲.

【参考文献】

『小学校学習指導要領解説　総則編』，文部省，平成11年５月.
『小学校学習指導要領解説　音楽編』，文部省，平成11年５月.
『初等教育資料』，文部科学省，№737 平成13年６月，№747 平成13年12月，№751 平成14年２月，№759 平成14年９月.